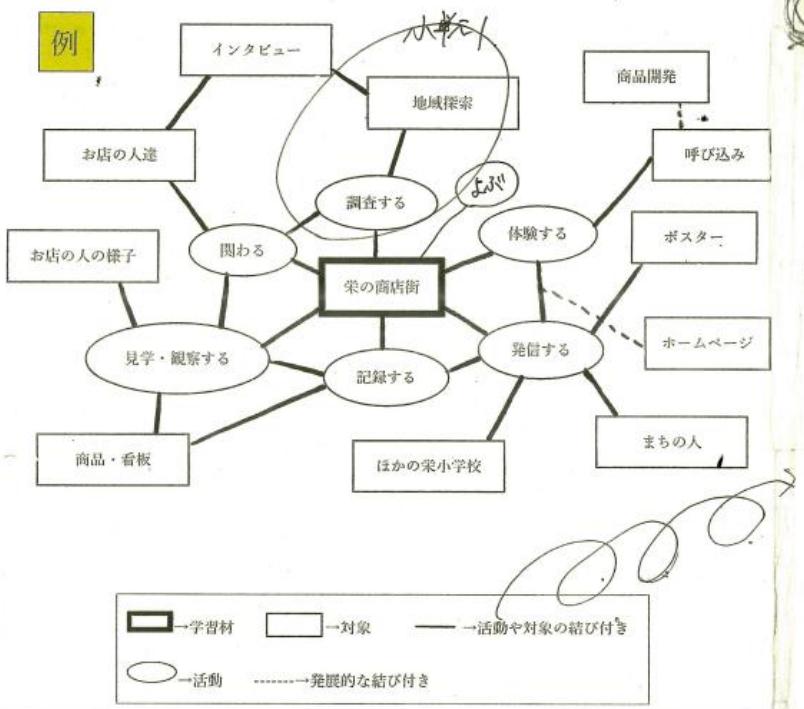
(3)第3学年　①単元構想

◎ウェビングをして、材としての広がりを想定してみましょう！（広がるものの方がよいです）
このまま単元構想（小単元づくり）として、活用することもできます。



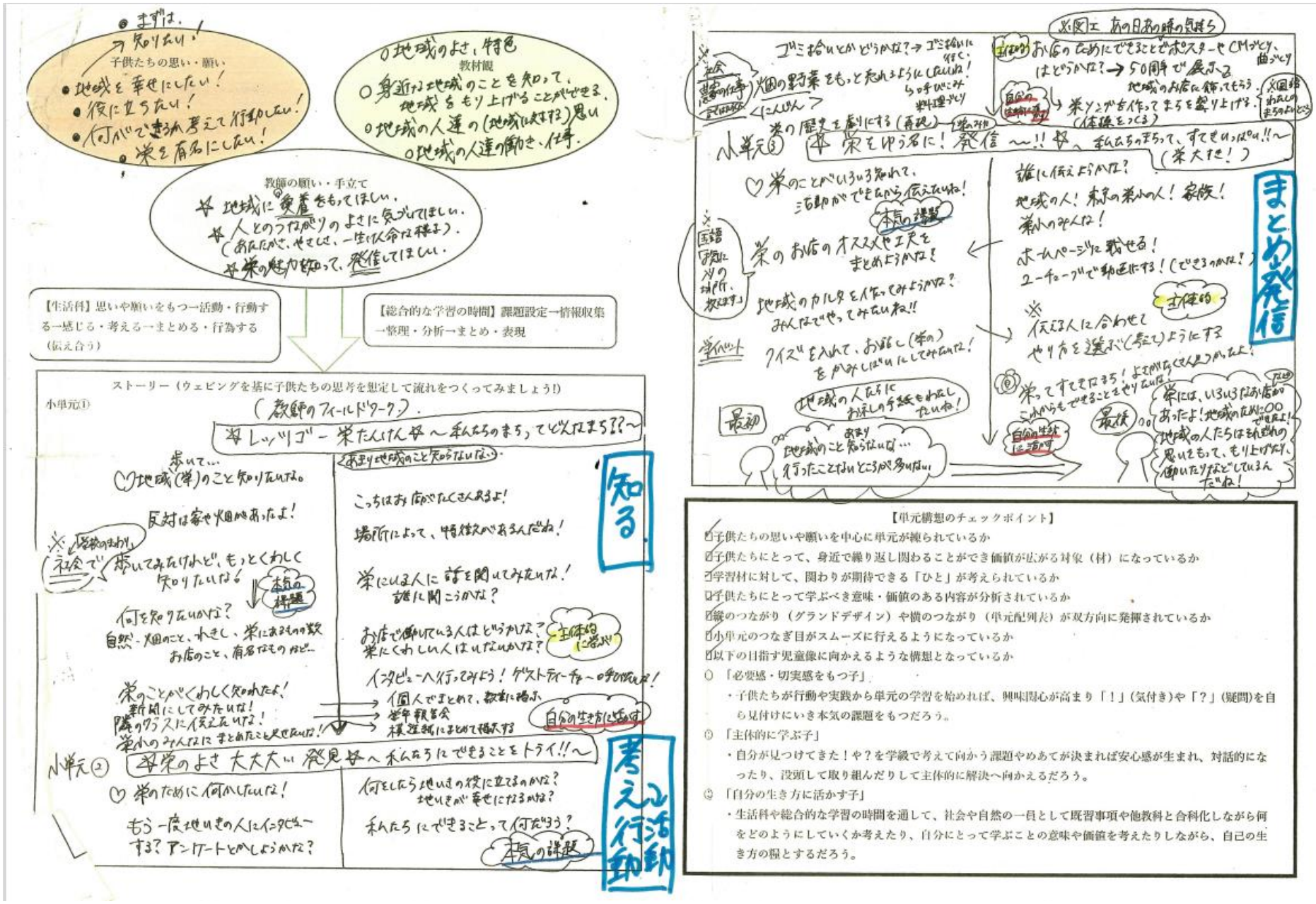
【学習材選定のチェックポイント】

□子供たちが本気で「やりたい!」「解決したい！」という思いや願いをもてるか
□達成感や成就感を味わうことができるものか
□身近にあって継続的に関われるものであるか
□学習材に対して熱い思いのもっている人と関わることができるか
□「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」というスパイラルが向上できるか
□育成する資質・能力が図れるものか
学んだ知識・技能や体験から見つけた課題に向き合い、創造力や想像力を発揮して解決しようとする児童の育成
□子供たちが気付きや疑問をもち、関連付いたり、概念が形成されたりするものか

◎ウェビングをして、材としての広がりを想定してみましょう！（広がるものの方がよいです）
このまま単元構想（小単元づくり）として、活用することもできます。

【学習材選定のチェックポイント】

□子供たちが本気で「やりたい!」「解決したい！」という思いや願いをもてるか
□達成感や成就感を味わうことができるものか
□身近にあって継続的に関われるものであるか
□学習材に対して熱い思いのもっている人と関わることができるか
□「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」というスパイラルが向上できるか
□育成する資質・能力が図れるものか
学んだ知識・技能や体験から見つけた課題に向き合い、創造力や想像力を発揮して解決しようとする児童の育成
□子供たちが気付きや疑問をもち、関連付いたり、概念が形成されたりするものか



【単元構想のチェックポイント】

- □子供たちの思いや願いを中心に単元が練られているか
- □子供たちにとって、身近で繰り返し関わることができ価値が広がる対象（材）になっているか
- □学習材に対して、関わりが期待できる「ひと」が考えられているか
- □子供たちにとって学ぶべき意味・価値のある内容が分析されているか
- □縦のつながり（グランドデザイン）や横のつながり（単元配列表）が双方向に発揮されているか
- □小単元のつなぎ目がスムーズに行えるようになっているか
- □以下の目指す児童像に向かえるような構想となっているか

◯「必要感・切実感をもつ子」

・子供たちが行動や実践から単元の学習を始めれば、興味関心が高まり「！」（気付き）や「？」（疑問）を自ら見付けにいき本気の課題をもつだろう。

◯「主体的に学ぶ子」

・自分が見つけてきた！や？を学級で考えて向かう課題やめあてが決まれば安心感が生まれ、対話的になったり、没頭して取り組んだりして主体的に解決へ向かえるだろう。

◯「自分の生き方に活かす子」

・生活科や総合的な学習の時間を通して、社会や自然の一員として既習事項や他教科と合科化しながら何をどのようにしていくか考えたり、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えたりしながら、自己の生き方の糧とするだろう。